

3おーむね

ふおーさいと

巻頭特集

仙台的玄関口が変わります！

**JR仙台駅・
駅前広場の再整備**



**全国から反響続々
3・11東日本大震災
『仙台建設業協会激闘の記録』
「私はこう読んだ」**

2013 No. **57**



建設業を通じて公共福祉の向上をめざす
一般社団法人 **仙台建設業協会**



02

巻頭特集

仙台の玄関口が変わります！

JR仙台駅・駅前広場の再整備

06

祝



お別れ

誘致決定！国連防災世界会議

仙台市総務企画局

国連防災世界会議準備担当局長

仙台建設業協会会長

寺内 讓氏 × 河合 正広

10

全国から反響続々

3.11東日本大震災

『仙台建設業協会激闘の記録』

「私はこう読んだ」

15

シリーズ 仙建協常置委員会 活動紹介

労務・安全管理委員会

「わが社の社会貢献事業」

仙建協会員各社のCSR(社会貢献事業)

17

ふぉーさいと ドクター

水虫…きちんとした診断・治療を受けましょう

がんばろう！仙台

18

進む仙台の震災復興

21

仙建協だより

がんばろう東北！
がんばろう仙台！

※仙建協は、仙台の復興に全力で挑みます。

FROM EDITORS

復旧・復興に多大な貢献 日本道路協会道路功労者表彰伝達式

平成25年度の道路功労者表彰伝達式が8月9日、仙台市役所で開かれました。道路功労者の表彰は、道路の整備・改善に功績のあった全国の団体、個人を表彰するものです。仙建協をはじめとする4団体が、日本道路協会から東日本大震災の復旧・復興に多大な貢献があったと認められ、推薦した仙台市の稲葉信義副市長から表彰状と記念品が贈られました。

稲葉副市長は「東日本大震災での奮闘、尽力が認められました。今後も市民が安心して生活できる環境の整備・維持に取り組んで下さい」と受賞をたたえました。



稲葉副市長から表彰状を受け取る河合正広会長(右)

新たな魅力と にぎわいのある まちづくりへ

～JR仙台駅・ 駅前広場の再整備～

東北の玄関口として親しまれているJR仙台駅と東西の駅前広場が、2015年度の地下鉄東西線開業に合わせて生まれ変わろうとしています。仙台市が路線バスの停留所や高速バス乗降場の集約など、東西の駅前広場の再整備に入りました。また、JRが駅ビル新築と東西自由通路拡幅を行っています。今回は、JR仙台駅を中心にした新たな魅力とにぎわいのあるまちづくりの計画について紹介します。

仙台駅周辺を大改造



現在の仙台駅



バス降車場



バスアイランド

JR仙台駅西口駅前広場の完成イメージ

■東西駅前広場の再整備

常に渋滞している仙台駅周辺の交通環境の課題解決を図るとともに、地下鉄東西線の開業によって人の流れが変わることを見据え、仙台市は2012年1月に「仙台駅駅前広場の再整備方針」を公表するとともに、JR東日本と「仙台駅東西自由通路整備に関する基本協定書」を取り交わしました。再整備のポイントは▽高速バス乗降場の東西への集約化▽西口バスターミナルの拡張による路線バス停留所の集約化▽ロータリーの混雑改善▽エレベーター、エスカレーター整備による交通機関相互の乗り継ぎ向上―です。

①高速バス乗降場の集約化

仙台駅には1日当たり約450便の高速バスが発着するほか、観光バスや送迎バスもひっきりなしに行き来します。こうしたバスの乗降場を集約します。高速バスは県内を中心とした短距離便を青葉通に、県外を中心とした中長距離便を東口駅前広場に集約します。また、観光・送迎バス乗降場を西口から東口に移動します。

②分散するバス停を集約

青葉通の「さくら野百貨店」前や複合商業施設「エデン」前などに分散している路線バスのバス停を西口バスター



駅前広場再整備スケジュール

	2013年度	2014年度	2015年度以降
東口駅前広場エリア	→		
自家用車エリア		→	
タクシーエリア		→	
路線バスエリア			→

東西線開業

現在の仙台駅

上からタクシープール、観光・送迎バスエリア、バスターミナル、一般駐車場

ミナルに集約します。周辺道路の円滑な交通を確保しながら、南町通の一部まで拡張。バスアイランド（乗降場）を現在の2から3に増設します。

③ロータリーの混雑改善

タクシーエリアと自家用車エリアの車両の動線を分けてロータリーの混雑を改善します。タクシーエリアでは、バス降車場の設置に伴ってタクシープールの収容台数を減らしますが、その代わりに福祉タクシーの乗り場を設置します。一方、自家用車エリアでは降車スペースを現在の1列から2列に増やし、乗り換えの向上を図ります。

④交通機関相互の乗り継ぎ向上

地下鉄とJRの乗り継ぎをスムーズにするため、エスカレーターやバリアフリーに対応したエレベーターを整備します。

スケジュールとしては、先行して整備に入った東口駅前広場が13年度で完了。西口駅前広場では、自家用車エリアとタクシーエリアを14年度で整備し、路線バスエリアは15年度から工事を進めます。後から整備する路線バスエリアを除いておおむね地下鉄東西線開業に間に合う見込みとなっています。



JR仙台駅の完成イメージ

上から2つ目までが東西自由通路、下が東口広場から見た外観

■JR仙台駅

JR東日本は13年2月に東西自由通路拡幅と東口開発を中心にした仙台駅の再整備を発表しました。

駅2階にある延長約120㍍の東西自由通路は幅員を2・5倍の16㍍に拡幅。3層吹き抜け構造に自然光を生かすガラス大屋根を設置することで、明るい大空間を創出します。

一方、東口駅ビルは自由通路の南北に建設する2棟の商業棟です。南棟が地上6階建、北棟が地下1階地上4階建。1階に駅レンタカーや後方施設、3〜4階に商業施設、東口改札、子育て支援施設、クリニックを配置し、5〜6階と屋上に約250台分の駐車場を確保します。工事規模は延長約120㍍の自由通路と南・北棟の商業施設

を合わせて延べ床面積約4万3、000平方㍍の規模になります。

既存駅舎の改修も進めています。新幹線と在来線の乗り換えルート新設や新幹線改札口の移設、みどりの窓口改修、ベビー休憩室の施設や構内営業者舗改修を行います。

東西自由通路と東口駅ビルはことし3月、駅舎改修は7月に着工し、16年春に完成する予定です。

さらに商業施設・北棟の東側には地下1階地上14階建、延べ約1万4、000平方㍍の宿泊施設を建設します。1〜2階が商業施設、3〜4階にレストラン・ホテルフロントロビーを配置し、5〜14階に約280室の客室を設けます。15年春の着工、17年春の完成を見込んでいます。

創造と交流の未来へ





仙台市総務企画局
国連防災世界会議準備担当局長 寺内 譲氏



仙台建設業協会 河合正広会長

東日本大震災の教訓と 地元建設業の役割を世界に発信

▼誘致決定！国連防災世界会議in仙台開催に向けて

特別対談

東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われた東北の地・仙台で、2015年3月に国連防災世界会議が開かれることをご存じですか？被災各地では復旧・復興に向けて着実に歩みを進めているものの、津波で甚大な被害を受けた沿岸部や福島原発の周辺地域など、いまだ生活再建の道筋が見えない地域も少なくありません。こうした中で誘致に成功した世界会議では、大震災から得た教訓を国内外の防災にどう生かしていくかを議論する場となりそうです。そこで、世界会議の準備に奮闘している仙台市総務企画局の寺内譲国連防災世界会議準備担当局長と河合正広会長が対談しました。

世界に認められた防災意識の高さ

河合 ここ仙台で国連防災世界会議が開かれることになりました。

寺内 国連防災世界会議は、1回目が1994年に横浜、2回目が2005年に兵庫で開催されました。仙台での開催は日本で3回目となります。河合 常に日本での開催と決まっているわけではないですね。

寺内 国連の会議ですので、基本的には国連本部があるニューヨークや、事務局があるジュネーブ

仙台市総務企画局
国連防災世界会議準備担当局長
寺内 譲氏

仙台建設業協会 会長
河合正広

で開くのが一般的です。ただ、日本では以前から世界の防災に役立てようと多額の資金を国連に拠出するなど、防災に対する意識の高さが世界から認識されていきました。今回、11年3月11日に東日本大震災が発生したことを受けて、政府が日本開催を求めたところ、12年12月の国連総会で日本開催が決まりました。国内候補地としては、仙台のほか、新潟県中越地震に見舞われた新潟が手を挙げていましたが、ことし5月に政府が仙台開催を閣議で了解しました。

震災の記憶を風化させないために

河合 15年3月というと、東日本大震災から丸4年です。世界会議の開催は、大震災の記憶を風化させないための、とてもいい機会になるでしょう。仙台の中心部では復旧が進み、都心部では大震災の爪痕はほとんど残されていませんが、被害が大きかった沿岸部には、家が建てられない、働く場がないという方がたくさんいる。そうした人々に「忘れられていない」「しっかりと目が向い

ている」と思ってもらえることが重要です。各国の代表や研究者が東北を訪れることで、福島原発事故の風評被害なども払拭できるのではないのでしょうか。

寺内 兵庫で第2回世界会議が開かれた時には、阪神・淡路大震災から約10年が経過していました。まちは既に復興して、震災の被害をうかがわせるものはほとんど残っていない状態でした。今回は仙台市内での復旧・復興は着実に進んでいますが、残念ながら、いまだに仮設住宅での生活を余儀なくされている方々がおられます。（世界会議が開かれる）15年になっても、まだまだ支援が必要であるということを、ぜひ多くの人々に知ってほしいと思います。

また、会議の誘致活動を進めていく中で、津波の被害を受けた4県（青森、岩手、宮城、福島）や関係市町と一緒に開催していくことを決めました。会議の参加者には、仙台市内だけでなく、石巻市や南三陸町などの沿岸部、そして、岩手、福島、青森の現状も見えてほしいと思います。

参加者5、000人超過去最大級の規模に

河合 仙台での世界会議は、どれぐらいの規模になるのですか。

寺内 前回の世界会議は、直前にスマトラ島沖地震が発生し、津波をはじめとする災害に対する関心が非常に高まったこともあって、参加者数は約4、000人に上りました。関連事業への参加者を含めると約4万人に達したということです。今回はさらに世界中の注目が集まっているため、会議参加者が5、000人を超えることが予想され

ています。仙台では1、000人超の国際会議の開催は経験がありますが、5、000人超となるとかつてないことで過去最大級の規模です。このため、会場、宿泊、交通、警備といったさまざまな面で周的な準備が求められます。

3、000人規模のコンベンション施設建設

河合 世界会議のメイン会場となるコンベンション施設はどのように整備していきますか。

寺内 世界会議の開会式では3、000人が収容できる規模の施設が求められます。仙台には、これに対応できる施設がないため、S造2階建て延べ床面積約5、800平方メートルのコンベンション施設を青葉区青葉山地区（宮城県スポーツセンター跡地）に建設します。現在、用地整備を進めており、1

4年3月には本体工事に着手、同年12月に竣工させる見込みです。世界会議をこけら落としの場



国連防災世界会議準備担当事務室にて。会議の成功に向け双方の連携強化を誓い合いました

として、その後も多くの会議を誘致していきたいと考えています。

河合 最初に大きな会議を開催して経験を積めば、そのノウハウを次の機会に生かすことができますね。

大震災の教訓を防災戦略に生かす

河合 日本国内では、南海トラフ巨大地震や首都直下地震の到来が懸念され、防災に関する注目が集まっています。

寺内 会議には、海外だけでなく日本全国から災害、防災の関係者が集まってきます。国連本体の会議は一般には公開されませんが、さまざまな場所で開催事業を展開しようと思っています。

河合 仙台市が世界会議の内容に関与することはできないのですか。

寺内 国連の会議ですので、あくまで政府が国連に対して発言する形で、仙台市は政府に提案する立場です。ただし、兵庫会議では、会議の最終的な目的である10年間の防災戦略を策定する際、兵庫県知事をメンバーに加え意見を発表する場が与えられました。今回も同じことがあると思います。奥山恵美子市長も、東日本大震災で得られた経験を新しい防災戦略に生かしていくべきだと考えています。

河合 防災戦略の中には、ソフトとハードの両面があると思いますが、具体的にはどのような提案が考えられるのでしょうか。

寺内 奥山市長が防災戦略に特に生かしたいと思っているのは、地域単位での防災組織づくりと防災教育です。

自然災害に見舞われるのは開発途上国が多いですが、そこに立派な防災施設を整備することは難しい。そうしたことを踏まえれば、自然災害が発生した時、どのような行動をとればいいのかを自分で判断できるよう、防災教育を行っていくこと



国連防災世界会議開催に向け建設を計画するコンベンション施設。建設地は仙台市青葉区の宮城県スポーツセンター跡地。2014年12月の完成を目指しています

が重要となります。また、地域単位で防災組織を構築することは、財政が厳しい途上国でも可能です。東日本大震災では、防災教育や防災組織が被害の軽減に役立ちました。この経験を世界に発信

■国連防災世界会議

防災戦略等を議論する国連主催の世界会議。過去には国内で2回、横浜市（1994）と神戸市（2005）で開催されている。

会議の規模は、神戸市での開催実績によると、参加機関は国連加盟国168カ国、国連機関等国際機関78機関、NGO161団体。参加者数は4,000以上、パブリックフォーラムへの参加者は4万人超。

仙台市が国連防災世界会議の誘致を表明したのは、震災から2ヵ月後の2011年5月で、今年5月に開催が正式決定した。国連会議が仙台で開かれるのは初めて。規模も本体会議への参加者が約5,000人、関連事業を含めると延べ5万人と、過去最大級になると見込まれる。会期は2年後の2015年3月14日～18日。

仙台市では、市民が協働で乗り越えてきた震災の体験や思い、さらには、地域における防災・減災への取り組み、防災教育、NPOや企業による活動など、発災からこれまでの歩みを世界にアピールする考え。国連防災世界会議を中心に、さまざまなコンベンションの誘致やデスティネーションキャンペーンなど、交流人口の拡大に積極的に取り組み、仙台・東北の再建と経済復興につなげていきたいとしている。

会議の詳細情報は下・準備局 hp 参照。

<http://www.bosa-sendaip/>

したいと考えています。
河合 避難などの重要性は、われわれも身をもって体験しました。自分だけでなく、周りの人々も被害に遭わないようにするには、適切な防災教育や防災組織が不可欠。個々の判断で逃げなければならぬ時は逃げる。そして、行政は勇気を持って避難を訴えることが重要です。
寺内 実際の経験を伝えることが最も説得力を持ちます。

地域建設業ならではの「仙台方式」

河合 仙建協では、東日本大震災で道路啓開やがれき処理などに取り組みました。世界会議で、こうしたことを知ってもらうための機会はあるのでしょうか。

寺内 世界会議に併せて関連事業を計画しています。東日本大震災では、建設業界が道路啓開に加え、がれき処理などに当たっていただきました。特にがれき処理では、現地で分別した上で中間処

特別対談

仙台市総務企画局

国連防災世界会議準備担当局長

寺内 謙氏

仙台建設業協会 会長

河合正広

理場に持ち込むという「仙台方式」が、早期処理に大きな効果を発揮しました。これらを発表してもらい、南海トラフ巨大地震をはじめとした自然災害への備えとして役立ててほしいと考えています。
河合 がれき処理は、通常の解体時と同様にその場でしっかりと分別しました。結果として、そのことが短時間で処理を終えることにつながりました。仙台市から処理の進め方などを任せてもらえたため、協会員で適切な班を編成し、迅速に対応することができました。仕事自体は難しいことではなかったが、地域に根差す建設業だからこそ実現できたのだと思います。われわれは、復旧・復興が終わっても、この地で生きていかなければならない。何事もごまかすことはできない。だから、うまくいったのでしょうか。

寺内 関連事業の会場として、仙台市民会館、宮城県民会館、せんだいメディアテーク、仙台市市民活動サポートセンターなどを手配しています。泥のかき出しを担当してくれたNPO法人や市民の活動報告や、避難所運営における女性の視点の重要性、大学など教育機関の活動などを幅広く発信する見込みです。2014年4月をメドに関連事業を公募する予定ですので、建設業界からぜひ応募していただきたいですね。

河合 実際に災害を経験しなければ分からないことはたくさんあります。建設業界だけでなく、他の業界とも連携して、皆が同じ方向を向いて防災に取り組むことの重要性を痛感しています。

寺内 建設業界が大震災で果たしてきた役割が、世界や日本だけでなく、仙台市内でも意外に知られていないように感じます。それを宮城県内、日

本国内でも知ってもらい、いつ起こるか分からない災害に生かしてもらう、またとない機会になるでしょう。世界会議があるというだけでなく、その関連事業に参加して、話してもらえることが大切です。

被災地の正確な状況を理解してほしい

河合 世界会議の開催まで、残り1年3ヵ月程度になりましたが、これから大事なことは何ですか。
寺内 会議や催しに参加した人たちが仙台にきて本当に良かったという気持ちで帰っていただくため、まち全体で歓迎する姿勢を示すことが重要です。多くの市民に関連事業などに参加してもらい、仙台で開催して良かったと思える工夫も必要となります。さらに仙台だけでなく、誘致活動に協力してくれた青森、岩手、宮城、福島などの正確な状況もしっかりと理解していただきたいと考えています。

河合 世界会議の情報をどのように発信していきますか。



■寺内譲（てらうち・ゆずる）

1980年東北学院大学経済学部を卒業後、仙台市職員に採用。教育局総務課長、政策調整局参事兼調整課長、震災復興本部次長兼震災復興室長、復興事業局次長兼生活再建支援部長を経て、2013年4月から現職。1955年10月11日生まれ。58歳。

ますか。

寺内 11月に専用ホームページを立ち上げました。このHPでは、復旧・復興に向けた各主体の取り組みなどを発信する「参加型」「呼び掛け型」の手法を検討しています。また、会議開催のちょうど1年前を記念したイベントも計画しています。

12月の国連総会で、会期や使用するマークなどの詳細が正式決定されますので、これから情報発信をさらに本格化していくつもりです。

河合 奥山市長は、以前から「ミュージアム都市構想」を提唱してこられました。世界会議の開催は、この構想の推進にもつながるのではないのでしょうか。

仙台は、今後東西線が運行開始するほか、さまざまな施設が充実していきます。大きなまちではないが、街並みや道路が整備され、「まちがきれいで分かりやすい」と評判が高い。5,000人規模の国際会議が成功すれば、世界から会議に必要な環境が整っているとの印象を持ってもらえます。あとは、ホスピタリティ、おもてなしの心が重要となります。

要となります。

寺内 この規模の国際会議は、仙台市だけの力ではとうてい開催できません。このため、ホテル、旅館などの宿泊業、バス、タクシー、鉄道といった運輸業、経済団体、関係行政機関など、さまざまな主体で構成する協議会を立ち上げました。この組織をしっかり機能させていけば、次の国際会議も誘致できると思います。また、仙台市総

特別対談

仙台市総務企画局

国連防災世界会議準備担当局長

仙台建設業協会 会長

寺内 譲氏

河合正広

務企画局国連防災世界会議準備担当室も発足当初は5人でしたが、いま15人体制となりました。来年度はもう少し人員を増やして、万全の体制で準備を進めていきたいですね。

河合 これからが正念場になると思いますが、われわれも積極的に協力していくつもりです。地域の建設業が安全・安心のためにハード面ではインフラ整備を進めてきたこと、そして、いざ災害などが起これば先頭に立って、道路啓開や人命救助がれき処理などに当たったのだということを、国内外の多くの人々に知ってほしいです。

鍵握る行政・業界の信頼関係

寺内 今回の会議は、むこう10年間の新しい防災戦略を策定する場となります。その柱の一つとして、企業・業界による防災の取り組みが議論される見込みです。例えば、がれき処理に採用した「仙台方式」や道路啓開は、建設業団体と行政の連携が功を奏したという点で世界的にも珍しい取り組みであり、多くの人々の参考になるでしょう。
河合 通常のがれき処理は、各社が役所と契約しますが、今回は被災範囲や処理量が膨大で、仙建協に2,000鈔の処理を一任していただきました。初めてのことでさまざまな苦労もあったが、信頼できる窓口として機能し、何とか成し遂げることができた。実は震災以前から行政と一緒に防災訓練していたのです。協会と行政が信頼関係を構築し、しっかりと連携できたことが、うまくいった要因と言えます。日本全国で、こうした体制を構築してほしいと願っています。

（平成25年11月6日収録） ■

●一挙公開！ 全国から寄せられた反響の数々

激闘の記録「私はこう読んだ」

3・11 東日本大震災 『仙台建設業協会激闘の記録』

仙建協が今年3に発刊した、東日本大震災『激闘の記録』は、刊行以来、全国から多くの反響をいただきました。本誌は、未曾有の大災害に挑んだ当協会の対応を記録に残し、教訓や指針を提示することを主眼としました。大規模自然災害は、またいつ、どこで発生するか分かりません。「次」への備えに向け、読者から寄せられた「声」を紹介します。

(順不同・敬称略)

地元建設業の役割を再認識

私たちには想像もできない苦労を経験し、困難に立ち向かった仙建協のこの『激闘の記録』は、同じ建設業に従事する人間として、身の引き締まる思いである。特に震災対応の工夫と教訓、Q & Aでは、近い将来高い確率での発生が予測されている南海トラフ巨大地震に向けて、県内建設業の課題や、事前に備えておくべきことが数多くあることに改めて気付くことができた。私たちもアクションを起こします。

ミタニ建設工業(高知市)

代表取締役 三谷剛平

地元建設業に正当な評価を

あの未曾有の震災から2年半が経過、風化が懸念されています。災害は忘れ

た頃にやってくる。

脆弱な国土故、防災・

減災等に資する国土

強靱化基本法案の精

神に基づく周到な備え

が必要です。

『激闘の記録』は貴重な記録資料です。写真を交えた記録は克明で分かりやすく整理されている上に、激闘という得がたい経験に基づく座談会、教訓、Q & Aという章立てを変えた記録は多面的且つ実用的です。この貴重な記録が多くの人に読まれ、万が一の被災時に生かされんこと、更に地域の安全・安心に対する地域の建設業の果たす役割が正当に評価されんことを祈念したい。

国土技術研究センター

理事長 谷口博昭

3・11 東日本大震災 仙台建設業協会激闘の記録



仙建協の震災対応を手本に

『激闘の記録』を拝見し、改めて防災組織による活動の連携に当時を思い出すところです。かつて飛騨地域においても豪雨災害を受け、各地からの支援に感謝したところです。

各頁を見ていくと、各部隊の綿密な計画と窓口の一本化が、やがて事業スキームとなる過程、連絡体制の確立、重機運搬台車の重要性など、どれをとっても、今後の我々に、日本全国にプラスとなる教訓ばかりです。当協会も毎年訓練を実施しております。あらゆる想定のもとに各部隊が連携できる

システムの確立にこのスピード活動を大いに参考としたく思いました。

あらゆるリスクに対し治にいて乱を忘れるの心構えのもと、当時は無我夢中で総勢150名で現地へ向かいました。

できることはなんでも基本スタンスに活動された数多くの方々の行動力を心に、我々業界関係者も、その対応を手本として、地域の安全確保に邁進する所存です。

本誌を発刊された皆さまに敬意を表し、一日も早い復興に人として、飛騨人のまごころ、結いを胸にペンをとりました。

吉城建設業協会(岐阜県飛騨市)

理事長 辻哲夫

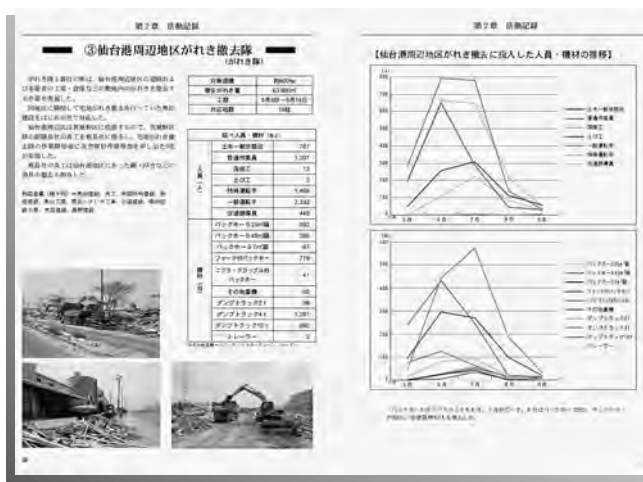
国民一人ひとりが備えと覚悟を

同じ業界に携わる者として、感動と敬意を感じながら読ませていただきました。未曾有の大地震と大津波という同時災害の中で、警察、消防、自衛隊、米軍の活躍がマスコミに大きく報道され続けられる中、多分、自らも被災者であらう建設業界の方々が、わが身を顧みず渾身の努力をなされたことに、改めて身の引き締まる思いがいたします。

私共熊本でも昨年の九州北部豪雨により大きな被害を受け、熊本支部会員も災害の初動、復旧対応に当たってききましたので、当時の皆さまのご苦労はよく理解しているつもりでございました。しかしながら、桁違いの大震災被災状況の中、短時間の内に状況の把握、行政との調整、組織の動員、初動対応、

復旧業務の分担、部隊の編成、実働、大混乱の中での記録の取材整理等々を拝見し、よくぞここまでできたものだと驚嘆の思いです。

我が国に居住する人々は、いかなる地域であろうとも、常にさまざまな災害にいつ襲われるか分からない不安定で脆弱な国土の上に日々生活しています。国民一人ひとりが常に災害に備えるさらなる覚悟と共に、公共部隊をバックアップできる能力を保持する唯一の団体、建設業界の確固たる存在が



『仙建協激闘の記録』本文より

迅速対応に心から敬意

東日本大震災のがれき処理について、仙台市は計画よりかなり早かったと思っていました。本書を拝見して、発災当初の協力本部の立ち上げや緊急応急出動など初動対応がいかに早く行われたか、また、がれき処理では、災害時にはともすればおろそかになりがちな現場での分別など、いかに効率よく対応されたか、大変よく分かりました。実際に災害対応にあたられた仙建協会員の皆さまには、地域を守るという立場でのご活躍に心から敬意を表したいと思います。災害は忘れたころにやってくるともいわれます。是非今回の教訓を今後の防災に役立てていただければ、と思います。

復興作業は、まだまだ、これからも続きます。地域のインフラを支える皆さまの努力があつてこそと思います。今後とも日本の国土保全に一層ご活躍されることを祈りしております。

前環境省水大気局長 鷺坂長美

後世への掛け替えない財産

断続的な余震や津波への警戒と恐怖心、未曾有の大震災による壊滅的な被災状況の中で、建設業界としての使命感を持って奮闘する姿が、十分すぎるほど伝わってきました。

私も近年、中越大地震と中越沖地震の2つの震災を体験しました。各々数年間は、業界の一員として数多くの役割を果たし、市民や行政から大いに頼られ、感謝されたものです。復

旧事業が終わったいま、新たな災害に備え、どう体力を維持し存続していくかが、私どもの喫緊かつ最大の課題です。災害はいつどこで発生するか誰にも分かりません。この記録に描かれた総てが、今後の災害対応で掛け替えない財産になるものと確信します。

新潟県建設業協会 長岡支部
事務局長 安達興四郎

実践的で貴重な指針

今後想定される「首都直下型地震」や「東海・東南海・南海3連動地震」などに備え、迅速かつ実効性にある対策を策定する際の貴重な指針です。

貴協会会員企業の方々が、自らも被災しながら、余震の続く中、命懸けで自衛隊や救援部隊に先駆けて、道路啓開や応急対策を行ったさまを拝見し感動しました。しかし当時の報道機関は、地元建設業の活動を伝えるものは全くなく、報道差別が行われているように思いました。我々同業の仲間が命懸けで挑んだ実績を、貴重な資料として作成された仙建協の皆さまに敬意を送ります。

京都府建設業協会 亀岡支部
支部長 堤周三

同業団体、公共機関の指針に

貴協会会員皆さまのご苦労と英知に感動いたしました。

行政職員は頭でものを考えますが、建設業は地形、現場の状況に則し臨機応変に対応できることが強みです。今回の震災対応に当たられては、行政機

関との軋轢を乗り越え地元地域のために貢献された協会の方々の行動には頭が下がります。

『激闘の記録』は全国の同業団体、行政当局に引き継がれ、災害対応の指針となることと思います。

滋賀県建設業協会 長浜支部
事務長 勝居金吾

全同業者、公共団体必携の記録

尋常ではない環境下での作業は本当に大変だったと思います。そんな中で役に立つのはやはり日々の訓練、そして災害時に必要とされる各方面との連携と意思疎通、想定外の事態発生時への想像力だと思ひ知らされました。幸い貴協会の皆さまのご英断とご尽力によって成立した仙台方式は拝見していて素晴らしい、この『記録』は全国の同業者、自治体必携に値する価値があるとさえ思います。

また、座談会では第一線での現場の活動、問題点また苦悩などがよく実感でき、今後他地域でも備えておくべき事も明確でした。地元企業の活用が迅速な復旧の鍵となる事を踏まえ、何事もなく平和で過ごしている日々でも災害を意識して自分たちの愛する地元のために備えておく事が何よりも重要だと思いました。

滋賀県建設業協会 長浜支部
畑中晴子

解決策、提案、諸知見を教示

私が勤務する自治体の所管する地域では、南海トラフ巨大地震発生時には

津波等で大きな被害が想定されており、現在、官民一体となった防災・減災体制の構築が検討されています。

このような状況の中、貴協会が全国各地域における今後の備えの参考として、発災後、幾多の困難を克服しながら復旧に全力を傾注されつつ、その経過について詳細な活動記録を作成されたことに対し、敬意を表したいと思います。

特に、現場で行動された皆さまでなければ問題提起できないこと、あるいは具体的解決策の提案等、さまざまな知見を教示いただき、参考になるとともに、これらを基本としてさらに地域独自の事情を考慮しながら、危機事象に対応していくべく準備、努力を重ねていきたいと考えます。

自治体土木技術職員
満留康裕（宮崎県都城市）

自分たちの地域は自分たちで守る

自分たちも被災されているのに、地域住民のため危険を顧みずに作業に従事された事は、同じ建設業に携わる者の一人として、見習わなければならぬ事だと思いました。初期におけるがれき撤去作業と並行して行われた行方不明者の捜索活動の話、自衛隊・消防・警察等と協会会員との連携作業の苦労話、また、作業中における資材及び機械不足や盗難被害と風評被害には、大変ご苦労があったと思いました。でも自分たちの地域は自分たちで守るという精神でここまでやれた事は、とても素晴らしい事だと思いました。私も昨

年、九州北部豪雨で復旧作業に従事した一人ですが、本誌から仙建協の皆さんのご苦労が分かりました。

熊本県建設業協会 阿蘇支部
土木委員 藤本政実

災害に備え積極活用

一刻一刻と変化する課題に向かい合い、克服されていった地元建設業界の皆さまのさまざまなご苦労を知りました。いづどこで起こるか分からない大災害に対して、日頃より、この記録を大切に活用していきたいと思っています。

鳥取県日野建設業協会
高木真紀子

複合災害に備え法整備急ぐ

9月末の仙台市が行う東日本大震災で発生したがれきの焼却処理が完了したとのニュースを、感激と感謝の思いで受け止めさせていただきました。当初の予定が大幅に短縮できたのも仙建協を始め関係の皆さまのご尽力の賜物と存じます。

これまでに経験のなかったあの惨状を前にして、発災直後から立ち上がってくださった皆さまの活動記録誌は、その苛酷さを改めて多くの方々へ認識させるとともに行政と民間の連携の重要性や課題も浮き彫りにしておられます。第2章の具体的な活動記録、第4章の座談会での支援当事者である皆さんのさまざまなご苦労のお話と共に、第5章で教訓をお纏めいただいた点も、蓋然性の高まっている大規模災害に備える上で特筆できる貴重なご提案です。

今回のような複合災害を想定し、議員として足らざる法整備も急がねばならないことを痛感いたしました。感謝をこめて。

衆議院議員 郡和子

偉大な力に勇気得る

この十数年、公共事業の減少と共に私たち建設業で働く人々の誇りが失われているように感じていましたが、業界が結束することで生まれる偉大な力に勇気をいただきました。

協会としての素早い、そして率先した対応に驚かされましたが、皆さまが苦悩と試行錯誤を繰り返して得た体験をこのように資料として作成いただいたことは感謝に堪えません。

私たちが将来の防災対策を検討する上で大変貴重な記録であります。行政・建設業界に是非とも参考にしていただきたいものです。

鳥取県建設業協会
服部啓史

教訓・提案が随所に

本年5月10日、当会員10数名で被災地・宮城県を訪ねました。現地で深松副会長から、昼夜にわたる激闘の記録を迫力ある現場の生の声として聞きました。

『激闘の記録』を見ながらの説明で、多くの記録写真から当時の様子が想定でき、納得しながら聞き入ったものでした。後日読み返してみると貴協会の狙い通り、将来への備えや教訓となる非常に参考となる記録だと再認識し、

大いに活用させてもらえればと思っております。

滋賀県建設業協会 伊香支部
支部長 湯本聡

共有できた復興への思い

震災から約1ヵ月後、復興の役に立ちたいという思いを胸に仙台駅に降りたことを『激闘の記録』を読み、思い出しました。私たちは現在、復興に取り組む多くの建設会社さまの現場に施工管理技士を派遣しておりますが、当時は被災地がどんな状況なのか、建設業の皆さまがどのような取り組みをされているのかも分からず、ただ何かしなければという思いに突き動かされていました。

事業を進める中で、被災地で建設業に関わっていたメンバーも加わりましたが、私のように建設業や被災地に詳しくないメンバーとの“温度差”を埋めるのは簡単ではありませんでした。しかしこの『激闘の記録』を共有することで、その温度差はかなり埋まったと感じています。

今後も私たちは、遠方から赴任する施工管理技士にも本誌を共有し、復興への強い思いをしつかりと伝えながら事業に取り組んでいこうと思います。

チームINQ合同会社
東北支店長 新開康博

具体的ノウハウ満載の“実用書”

「災害が起こったら出動する——」日頃からそのような意識を持たれている建設業の方が、どれくらいいらっ

しゃるのかは存じません。でも、「造る」ことに従事している業界の皆さまの多くが、災害時には「壊す」「撤去する」という平時とは真逆の作業を行うための協定を結ばれているはずです。

そして、そうした実際の活動状況をまとめたのが、この『3・11 東日本大震災―仙台建設業協会の記録―』です。一読して、最初に強く感じたのは、「これは記録ではなく、『実用書』である」ということです。「流されてきたハイブリッド車には、絶対触ってはいけない」「行方不明者を捜索する重機オペレータの精神的ケア」「墓石や位牌の措置」等々、経験された方にしか得られない知見やノウハウが具体的に示され、後世にこのことを残したいという気概が随所に感じられます。

地元企業の奮闘を称えつつ、「いざ」という時に備えるため、全国の建設業の方にも読んでいただくことを切望します。

環境新聞社
菊池隆子

平時の備えの大切さを痛感

想像を遥かに超える甚大災害の恐怖と、言い様のない困難と混乱の中で、自己を犠牲にしながら、秩序正しく迅速に災害対応されたことに對しまして、同じ建設業を生業とする者として畏敬の念を強く感じました。

小規模ですが、私共の鳥取県西部地方でも2000年10月にM7・3の震災を体験し、また今年も台風による水害に町の建設業協会として、緊急対

応を行いました。実際に年1回づつの緊急連絡訓練を行っていますが、予測の出来る災害はそれなりの準備が出来ますが深夜休日となりますと、連絡すら俟たないと言う現実があります。

本誌には事前に行われた行政との合同防災訓練が、効果を発揮したと記述されていますが、こうした日頃の備えがとても大切と考えられます。「仙台方式」なども大変多くの教訓を得ることが出来ました。

地元で、地域に精通した建設業者として、使命感と気概を持ち、本誌をお手本にして参ります。

鳥取県西部建設業協会 副会長
南部町建設業協会 会長 別所一生

後世に伝える有意義な記録

通算で5年弱、仙台市民であった私にとつて、あの地震と津波は想像を超えるものでした。その日の夜、自衛隊のヘリで政府調査団の一員として宮城県庁に入り、情報収集に当たりましたが、これまで経験した災害とは次元が違ふことに愕然とした記憶があります。

そのような状況において、建設業の方々が、震災直後から出動し、救命活動に不可欠な道路啓開やがれき除去に当たられました。民間最大の実働部隊としての建設業の力がなかったとしたら、事態はさらに悪化したはずですが、このことを、正確な記録として後世に伝えることが不可欠であることはいうまでもありません。民間ベースでこれまでの資料を作成し、その周知に努められていくことに對し、深く敬意の念

を表しますとともに、被災地の復興と貴協会の発展を心より祈念いたします。

国土交通省大臣官房技術調査課
建設システム管理企画室長 高村裕平

時宜を得た記録集の発刊

この記録集は、震災直後の道路の啓開やがれき処理など仙台建設業協会の皆様の初動対応を中心に検証して記録されており、実際に現場で活動された貴会員の生の声、対応の工夫、教訓などが得られる貴重な資料であり、今後の備えに活用すべきものであります。

現在、県では復旧・復興事業を鋭意推進しているところですが、一方で、震災の状況などを検証し、「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」に向けた取組を伝承し全国に発信していくことが、被災地の責務であると考えています。

このような観点からも、この記録集の発刊はまさに時宜を得たものであり、今後とも、貴協会のご支援ご協力をいた、いただきながら、早期の復旧・復興に取り組んでいきたいと考えています。

宮城県土木部長 遠藤信哉

続編の発刊を

(感想)

・記載の数値が全て天文学的。改めて震災の脅威を感じる。

・本年7月「建設トップランナーフォーラム」で貴協会深松努副会長の発表を聴講したが、当日の話を思い出し、本誌を見るにつけより一層「大変さ」「忙しさ」を痛感した。

・写真、表、文章の構成がよく読み易い。
・若干、文字量が多いか？
(今後の活用方法)

・この素晴らしい軌跡の証で震災を風化させないツールとされては？

・深松副会長のような講演可能な方を派遣講師として全国各地に発信しては？ それには助成金等で、ボランティアの範囲を超えぬよう国等へ経済的支援を求める。

・私見だが五輪や消費増税で復興支援が滞らぬよう「声」を出し続けたい。
・歴史に刻まれる一連の取り組みとして続編の刊行を期待。それによって永続的に語り継がれる「地域の建設業」をアピールし続けていただきたい。

(内容に対する意見)

・業界向けにはこれで十分
・一般向けには女性や子供の視点が記載されると、より興味を引くか？
・時系列で続編等々、語り継いでいただきたい。

以上、勝手な物言いですが失礼しました。今後とも貴協会の働きで仙台が復興しさらに隆盛すること、苦勞が報われる建設業となること、遠い空から記念させていただきます。

斜里建設工業 代表取締役 土田好起
網走建設業協会 監事

即実行できる事例ふんだんに

地方の建設業者、建設業協会の担う役割を自覚でき、建設業に携わる者にとって「いざ」という時の備えをするための動機づけになる資料だと思いま

す。特に「工夫と教訓」「Q & A」は、具体的で、すぐにでも備えを実施できる事例がたくさんあるのでより多くの人たちに読んでいただきたいと思っています。

ハードだけでなくソフト（仕組み、意識）の部分で災害に強い日本を創るためのツールとして役立つ記録だと思います。

新潟県建設業協会 村上支部
加藤組 専務取締役 加藤善典

南海トラフ地震対策へ

地元建設業界の皆さまが、自らも被災されながらも、復旧・復興に取り組まれたその姿に感動しました。心から敬意を表します。

高知県におきましても南海トラフ巨大地震への対応が喫緊の課題となっております。「震災対応Q & A」をはじめ、この『激闘の記録』が災害発生時の対応に大きな示唆を与えていただいたことに感謝申し上げます。

高知地区建設業協会
高知県建設業協会高知支部
会長兼支部長 武田啓郎

危機・安全管理の貴重な資料

貴協会並びに会員の皆さまには、震災直後から、大変な環境下での震災復旧・復興等にご尽力いただき、感謝申し上げますとともに、敬意を表します。

引き続き、皆様と一緒に、早期復興に向けて労働災害防止に取り組んでまいりますと存じます。

拝読しますと、震災直後から、大きな役割を担い、重大な使命を持って臨まれており、この『激闘の記録』として残される教訓は、危機管理や安全管理などにもつながる貴重なものであります。

甚大な被害の中からも、皆さまの英知が結集されている数々のノウハウは、人命尊重の基本理念と、人として今すべきものが集約されており、後世にしっかりと伝えて参りたいと存じます。

労働基準部長 能坂正徳
宮城労働局

故郷の早期再建切望

会員の皆さま方が一致団結し、速やかに緊急対応に取り組まれたことに心より敬意を表します。

自らの会社・家族が被災し、その中で社員の安否確認・社内体制の確立、行政との連携・地域への支援活動等、短時間のうちに整え災害に立ち向かわれたことは、驚きでいっぱいです。人間、窮地に立たされると、何でもできるのでしょうか。電気や通信が途絶え情報源が失われたなか、会長さんがラジオと蠟燭を携えて本部にいられたとのこと。暗い中に柔らかなほのかな蠟燭の明かり、どんなに暖かくまた力強く感じられたことが想像するに余りあります。

私共の地域も、東海地震や南関東地震等巨大地震が想定されています。この冊子に記載されたことや指摘された課題は、私たちにとって大変示唆に富む貴重な資料として拝見させていただきます。

きました。

まだまだ復興も杜緒に就いたばかりと伺っています。是非、故郷の再建の槌音が高らかに東北の地域に鳴り響き、故郷がよみがえることを切に願ってやみません。

平塚建設業協会（神奈川県）
会長 長谷川辰巳

国土強靱化対策に全力

先の東日本大震災では、仙台建設業協会の皆さまのご尽力を心より感謝申し上げます。

業界の皆さまのお力添えで、がれきの処理をはじめ、道路の拡幅やインフラ整備を早期に行うことができました。特に仙台のがれき処理では、がれきの迅速な回収と分別処理を両立させた「仙台方式」を編み出し、石巻から受け入れた震災がれきも含め、2013年9月には焼却が完了し、12月には処理・リサイクルを含めた全ての工程を終えることができました。

この『記録』を拝見させて頂き改めて、学校・公共施設・民間建築物等の耐震化加速と通学路の歩道整備など、国民の安全・安心に直結する社会資本の前倒し整備の重要性、防災減災に資する国土強靱化基本法案の重要性が益々問われて参ります。

これからの災害に備え、さらに強い日本を作っていくためにも、仙台建設業協会の皆さまとともにスクラムを組んで震災復興に取り組んでまいります。

前厚生労働副大臣 前復興副大臣
衆議院議員 秋葉賢也

地域を守り支える建設人

災害時、頼れるのは地元建設業者であることを証明した記録本でした。

復旧・復興という目的意識を明確に持ち、数々の困難を乗り越え、時には行政間のテリトリーにこだわって全体を見失いがちな行政の人たちと調整しながら、予定より早くがれき処理できたことは、今後、大いに参考になるものと思います。

地域を守り・支えるのは、地元建設業者です。地域そして、全国の方は、地元建設業者をもっと理解し、応援することが必要であることをこの記録本から痛感いたしました。

日本建設機械施工協会 中部支部
事務局 永江豊

被害と教訓忘れまじ

東日本大震災は東北沿岸に壊滅的な被害をもたらしたが、同時に、地域建設業が持ついた潜在能力を引き出す契機にもなった。

地理に明るく、地元と緊密なネットワークを張り巡らせる企業が連携し、道路の啓開や災害廃棄物の処理を推し進めたことは記憶に新しい。

ただ、震災から2年9カ月が経過し、原発や海から遠い内陸部などでは震災の被害と教訓が忘れられつつある。震災の記憶を風化させないためにも、折には意義があると思う。

日刊建設工業新聞社東北支社
平松健一郎

支倉の杜から

こんにちは！

●シリーズ 仙建協常置委員会活動紹介

◆労務・安全管理委員会

労務・安全管理委員会の今年度は、特に▽震災復旧・復興現場のパトロールによる巡回指導▽安全指導員の研修▽経営者への安全啓蒙、各社安全・衛生担当者の研修・教育・啓蒙▽雇用改善・人材育成の対策―を重点項目に位置付け活動中です。

7月と9月に実施した仙台労働基準監督署と仙台市

労務・安全管理委員会 主な活動と研究テーマ
・労務管理及び雇用対策
・労働安全、衛生管理対策
・労働災害対策
・労務関係諸法令の研究
・建設技能工の養成訓練



仙台市・仙台労基署との合同パトロール(7/2)。現場は「元寺小路福室線上部工架設工事」。施工は東日本コンクリート

労務・安全管理委員会は、作業現場での労働災害防止や法令順守に向けた取り組みを展開しています。主な活動内容は、作業現場の安全指導パトロールで、平成24年度のパトロールは20回以上を数えました。また、安全大会や研修会、仙台基準監督署などとの連絡会議を通じて、安全・法令順守に対する意識の高揚を図っています。

の合同安全パトロールには、労務・安全管理委員会が全面的に協力。7月のパトロールでは、夏場という時期でもあり熱中症対策について重点的に点検・指導し、9月は墜落・転落災害、建設機械・クレーン等災害、倒壊・崩壊災害の三大災害防止対策を重点化しました。

また、9月に開いた仙台労働基準監督署との意見交換会では、協会側が▽



伸和興業施工の「東部地域防災集団移転促進事業 田子西隣接地区基盤整備工事(北工区)」現場で10/17に実施した雇用・安全管理パトロール

熱中症予防対策▽復興事業における安全対策▽会員外の建設現場で危険作業を発見した場合の措置▽社会保険の義務付けについて▽労災隠しの傾向―な

愛する地域の発展と 社会環境向上に全力

仙建協会員 「わが社の社会貢献活動」

地元との結びつきが強い仙建協の各会員は、地域の催しやボランティア活動を積極的に行っています。しかし元来、PRが不得手(？)な業界であるため、それらの活動はあまり一般には知られてきませんでした。

そこで協会では過日、会員のCSR(社会貢献事業)の実態調査を実施しました。それらを大まかに分類すると【別表】の通りです。

圧倒的に回答数の多かった事業は「清掃活動」



清掃活動は多くの企業が実施

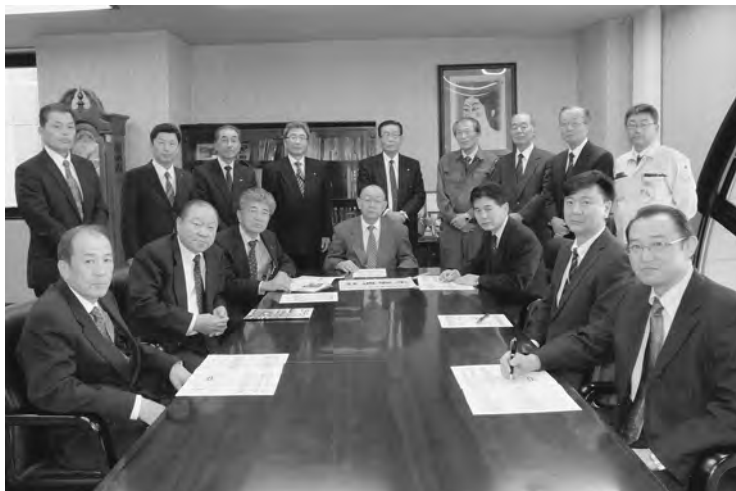
でした。NPO及び業界団体の呼び掛けに応じた参加のほか、地域と協働で、社単独で、活動のきっかけこそさまざまですが、「まちをきれいにしたい」「市のシンボル(広瀬川や市中心部の目抜き通りなど)の美化に貢献したい」「地域に恩返ししたい」と、多くの企業が積極的に清掃活動に取り組んでいました。また、清掃活動に伴う公園の除草や、ごみの一時収集所に敷地を提供している企業も幾つか見受けられます。

した。まちと自然の美化はもちろんですが、こうした会員の活動が、ごみのポイ捨てや不法投棄、落書きなど、不正行為防止への啓蒙になることを願って止みません。清掃に関連して「環境



クリーンエネルギーで環境保全活動も

保全」も多く回答がありました。ホタルの観察会や、広瀬川と触れ合うイベントへの参加と協力、またメガソーラ発電で排出CO₂削減に貢献するという企業もありました。次に多かったのが「防犯活動」で、その多くが仙建協の社会貢献活動の一つである「子ども110番パトロール事業」に各社が呼応したものです。小中学校の登下校時間に



◆労務・安全管理委員会◆

(氏名 50 音順)

役 職	氏 名	会 社 名
委員長	佐藤元一	佐元工務店
副委員長	須田 修	山辰建設
委員	熱海義浩	熱海工務店
"	黒坂 茂	若葉建設
"	菅原 博	阿部砂利建設
"	芳賀恒男	小河原組
"	門間 剛	河北建設

(7 名)

どを質問。復興事業の本格化に伴い資材や職人不足が顕著になっている現状から、安全性を考慮した工期延長など

◆労務・安全管理委員会◆ 安全指導委員会

H25.11 月現在

役 職	氏 名	役 職	会 社 名
代表幹事	佐藤一尚	安全環境部長	石井組
幹事	小畑満男	工事部顧問	佐々良建設
幹事	林 正次	環境安全部次長	深松組
"	遠藤 正	安全衛生課長	三浦組
"	小平幹家	安全衛生部参事	阿部建設
"	佐々木光也	常務取締役	橋本店
"	佐々木正元	安全管理部長	日建工業
"	嶺岸建志	安全管理部部長	後藤工業
"	遠藤秀紀	建築部長兼安全部長	仙建工業
"	田中 誠	工事部安全次長	阿部和工務店

(10 名)

の柔軟な対応や、事故防止のための安全経費の適切な計上が不可欠との声が上がりました。

さらに9月の安全大会では、仙建協の河合正広会長が「東日本大震災からの復旧・復興工事がピークを迎えているところ。労働災害の未然防止に、一層の努力をお願いしたい」と要請。県内で交通死亡事故多発緊急事態宣言が発令中であることにも触れ、工事車両に絡んだ重大事故の増加を防ぐため、安全運転の徹底も呼び掛けました。

引き続き、仙建協労務・安全管理委員会の佐藤元一委員長が、労働災害ゼロを目指して努力するとした安全の誓いを読み上げ、参加者全員で意識を新たにしました。

仙建協会員企業 主な社会貢献事業

事業名	内 容
清掃活動	道路、公園清掃や不法印刷物の回収、公共物の落書き落としなど
環境保全活動	自然観察会や自然とのふれあいイベントの協力など
福祉事業	福祉施設への寄付、施設イベントの協力など
防犯活動	子ども110番、社や現場周辺の防犯パトロールなど
献血	赤十字社への寄付も
地域防災活動	消防団活動、降雪時の融雪剤散布、交通安全啓蒙活動など
教育	インターンの受入れ、高校生の現場見学会、部活動支援など
地域イベント	祭りへの参加、餅つき大会の実施など
寄付事業	地域の祭りやイベントへの寄付
文化事業	無料コンサートの実施など
施設提供	ごみや廃品などの一時収集置き場に敷地を提供。社の一室を書画の展示会等ギャラリーとして無料貸し出しするなど
災害ボランティア	被災住民に燃料や衣類、その他生活身の回り品の無償提供、被災者を招待した音楽会の実施など

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。



自然観察会で仙台の豊かな自然を市民と共感

「建設業を通じて公共福祉の向上をめざす」のが定款にも定める仙建協のモットーです。そのため、福祉事業には各社、特別に力を入れていると窺えました。福祉施設への寄付、利用者との交流会、幼稚園・保育園への遊具、砂等の提供などなど、内容はさまざまですが、各社の公共福祉への高い関心に、社内から出た（と思われる）アイデアが、よく生かされているようです。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

「献血活動」にも各社積極的に参加していました。

水虫

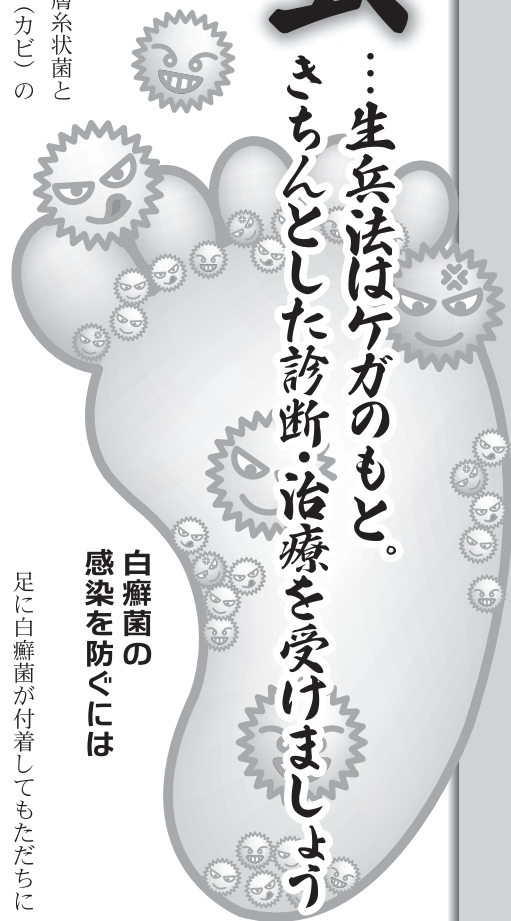
…生兵法はケガのもと。
きちんとした診断・治療を受けましょう

白癬とは

白癬とは「白癬菌（皮膚糸状菌とも言いいます）」という真菌（カビ）の一種が皮膚に寄生・増殖している状態です。皮膚糸状菌は感染宿主ないし生息環境の嗜好性により①ヒト好性菌②動物好性菌③土壌好性菌に分類され、白癬の多くはヒト好性菌と動物好性菌によって生じます。白癬はさまざまな部位の皮膚に感染しますが、ここでは最も一般的な「足白癬」について述べていきます。

足白癬の症状

白癬の代表である「足白癬」は症状によって、足の裏・縁・趾（ゆび）などに数mm程度の水泡ができて皮がむける小水泡鱗屑型、趾の間が白くふやけたようになり、ときに発赤や亀裂を伴う趾間型、足の底が厚く硬くなる角質増殖型に分類されますが、時に各型が混在しているような例や湿疹のように見える非定形的な例を見かけることもあります。多くの方が「水虫はかゆい」と考えているようですが、実際は足白癬の多くの例でかゆみがほとんどなく、「いつの間



白癬菌に感染するか？

白癬菌は日常生活のあらゆる場所に存在しますが、家族の構成員に水虫患者がいる家庭の床や、複数の人が裸足になる温泉場・スポーツクラブの床などから有意に多くの白癬菌が検出されます。とくに公衆浴場などの足拭きマットからは多数の白癬菌が検出されますが、裸足にならないはずの居酒屋の座敷などからも白癬菌が検出されるという報告があり、靴を脱ぐ環境には白癬菌が落ちていると考えるべきでしょう。こういった場所に裸足で着地すれば、容易に白癬菌が付着するというわけです。

白癬菌の感染を防ぐには

足に白癬菌が付着してもただちに感染するわけではありません。白癬菌が健康な足の皮膚表面に入りこみ感染を成立させるためには、24時間以上同じ部位に白癬菌が付着していなければなりません。感染が成立する前であれば足に付着した白癬菌は洗浄や清拭で容易に脱落しますので、毎日風呂で丹念に足を洗っていれば足白癬をかなり予防できます。ただし公衆浴場やスポーツクラブの浴室などに置いてある足拭きマットには大量の菌が存在しますので、そのような施設の浴室で足を丹念に洗っても、足拭きマットに足を置いたと

たんに白癬菌が付着します。そうすると次に入浴するのは24時間後だったりしますから、白癬菌に感染する可能性が出てくるわけです。したがって外で裸足になれば必ず白癬菌が付着すると常に意識し、こまめに洗浄・清拭を心がけると予防効果が上がるでしょう。

白癬の診断と治療

「水虫」といっても、適切な治療のためには正確な診断が必要です。足白癬の診断は足にできた水泡や剥がれかけた皮膚の一部を採取し、顕微鏡を用いて白癬菌を確認するか、真菌培養検査で白癬菌を証明しない限り確定できません。どんな名医でも症状を見ただけでは白癬と診断できないのです。足に何らかの症状があると、素人判断ですぐに「水虫」と考え、市販の「水虫薬」を購入して塗り始める人がいますが、このような行動はあまり勧められません。本人が「水虫」だと思っていた病変が実は湿疹やほかの皮膚病であった

り、市販の「水虫薬」を塗布したためにその後の顕微鏡検査の結果に影響を及ぼしたりするからです。また市販の「水虫薬」の中には、本来不要と思われる痒み止め成分や局所麻酔薬などが配合されている製品があり、これらの成分でかぶれ（接触皮膚炎）を生じた症例の報告も見られます。

白癬菌を証明して確定診断に至れば、抗真菌剤という薬を塗り始めます。感染の初期であれば、症状が見られる部分より少し広い範囲に3〜4週間薬を塗れば治ります。数カ月の数年放置された足白癬では白癬菌が足全体に拡がっていますので、薬を足底・趾間・足縁など足全体にまんべんなく2、3カ月は塗り続けた方がよいでしょう。紙面の都合で今回は爪白癬について言及できませんが、爪白癬は足白癬が長年放置された結果に生じることが多いようです。足の皮膚に何らかの症状を生じたら、自己判断で市販薬を使いはじめたりせずに、まず皮膚科を受診して確実な診断と治療を受けましょう。

【協力・仙台市医師会】

今泉 勤

（いまいずみ・つとむ）

■経歴
1991年山形大学卒業。山形大学皮膚科学教室入局、山形大学付属病院、篠田総合病院、山形県立新庄病院、山形県立日本海病院勤務などを経て、2000年皮膚科コスモクリニック開設。現在に至る。



復興へ 歩みを進める 仙台市内

市内に進むさまざまな復興事業の現在の様子

【がれき処理】

仙台市では、震災で約135万トンのがれき、約130万トンの津波堆積物が発生しました。

がれきの撤去、処理に当たっては、仙建協をはじめとする地元企業が活躍。11年12月に撤去が完了し、ことし9月には焼却処理が終了したところです。地元企業の総力を結集した早期撤去、分別徹底と迅速処理など「仙台方式」として注目を集めた仙台市のがれき処理が節目を迎えました。搬入場は14年3月末までに原状復旧し、すべての処理が完了する予定です。



■9月末には仮設焼却炉の火納め式が開催されました

【かさ上げ道路事業】

七北田川から名取川までの約10キロメートルについて、堤防機能を付加した高さ6メートルのかさ上げ道路を整備します。

現在の県道塩釜亘理線の東側に作り、片側1車線ずつの2車線の道路になる予定です。

盛土材には、震災で発生したがれきも活用します。



■13年8月の搬入場です。処理がずいぶん進みました ※仙台市提供



■かさ上げ道路実物大モデル

【宅地被害復旧】

市内丘陵部を中心に深刻な地すべりの被害がありました。被災宅地数は5,728宅地（13年7月31日現在）に上り、このうち5割近くとなる169地区では公共事業による復旧が行われています。

6月には第1号となる松森字明神地区(泉区)の工事が完了しました。



■完了第1号となった松森明神地区



■着工した折立五丁目地区の宅地復旧工事(5月)

【復興公営住宅の整備】

仙台市の復興公営住宅は供給目標を3,200戸に設定していて、着々と建設が進んでいます。

仙台市直接整備箇所に加え、公募買取事業として民間事業者の力を活用して整備する箇所も工事が始まりました。



■客土工



■農地復旧・雑物除去工



【東部津波被災地域の再建】

津波被害を受けた東部地域で仙台市が進める防災集団移転促進事業では、移転先の団地整備工事が着工を迎えています。市は、区画整理地内を含む13地区に集団移転先を計画していて、市が直接造成する移転先のうち宮城野区の蒲生雑子袋地区ではすでに造成工事が終わり、宅地を供給しています。14年度内に移転先13地区の造成が完了する見込みです。



■移転先5地区の造成着手で式典（10月）



■造成工事が完了した蒲生雑子袋地区（工事前→施工の状況→完成） ※仙台市提供



■田子西隣接地区北団地（工事前→東北農政局による表土採取状況→地盤改良→地盤改良後） ※仙台市提供

【仙台東地区で進むほ場整備事業】

津波で浸水し被害を受けた仙台市の東部の農地では、復旧とともに生産性の高い農地に再生するため、国を主体とした大規模なほ場整備事業が計画されています。対象面積は約2,000畝におよび、農地の大区画化を進めるほか、農道の拡幅、用水路のパイプライン化工事などを行います。

また、東部地域ではこれまでに災害復旧を終えた約1,400畝の農地で営農が再開されています。

※東北農政局仙台東土地改良建設事業所提供



■排水機場復旧工



■ほ場整備事業の着工を祝う式典（10月）



■排水路復旧工

労働災害未然防止へ 一層の努力誓う 25年度安全大会

仙台建設業協会の平成25年度安全大会が9月27日、仙台市民会館で開かれました。当日は会員など約130人が参加し、安全への意識を高めました。



あいさつに立った河合正広会長は、「東日本大震災からの復旧・復興工事がピークを迎えているところです。労働災害の未然防止に、一層の努力をお願いします」と要請しました。また、県内では交通事故多発緊急事態宣言が発令されていることに

引き続き、仙台労働基準監督署の鈴木康一署長が、「工事量の増大に伴って、労働災害の増加や働く人の過重労働による健康障害の発生を危惧（きぐ）しています。第12次労働災害防止計画では建設業を重点産業に位置付け、5年間で30割以上

の減少という高い目標を設定している。目標達成への協力とともに、無事故無災害での復興をお願いします」とあいさつしました。

この後、仙建協労務・安全管理委員会の佐藤元一委員長が、労働災害ゼロを目指してさらに努力するとして安全の誓いを力強く読み上げて、参加者全員で決意を新たにしました。

このほか、仙台労働基準監督署の大山晶弘安全衛生課長が「建設業における労働災害防止対策」について講話を行うとともに、安全研修では「建設事業者の健康管理」をテーマに、東北労災病院勤務者予防医療センターの保健師である根本友紀氏が「これが知りたい！メタボリックシンドロームのすべて」と題して講演しました。

無線を使って本部と連絡

災害時の連携向上へ 太白区役所と合同訓練

大規模災害の発生に備え、仙建協業協会は10月30日、仙台市太白区役所と災害時合同訓練を実施しました。災害発生時の迅速で的確な対応や、区役所と仙建協の連携向上を目指すものです。情報伝達を中心として、区役所からの出勤要請への対応などを訓練しました。

今年の訓練は電話やファクスが使用できる状況を前提に情報伝達を行いました。また、各隊長社に配備している無線も活用したことも特徴です。当日は宮城県沖を震源とするマグニチュード8・0、震度6弱の地震が発生したことを想定して、速やかに災害応急措置協力会本部を設置しました。仙建協災害応急措置協力会の各隊長社は、無線を使って被害状況や資機材保有情報を本部に報告しました。

一方、太白区役所には災害応急措置協力会太白区作業隊長社の河北建設から3人が情報収集連絡員として出動しました。太白区役所からの出勤要請を受けて、太白区山田北前町の旗立緑地で崖崩れが発生したという想定の下、すぐさま現地に向かい、現場の状況を報告するとともに、復旧方法の決定や人員、資材、重機の手配状況について、無線を使って本部と太白区役所に報告するという一連の手順を訓練しました。

- 21日 木建パトロール
- 26日 第5回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 28日 平成25年度仙台市防災関係機関等連携訓練(仙台市消防局)
- 7月
- 1日 第1回環境福祉委員会
- 2日 第1回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール
- 4日 木建パトロール
- 5日 平成24年度施工仙台市優良建設工事表彰(仙台市役所)
- 9日 仙台工業高等学校【土木科】現場実習(～11日まで)(各現場)
- 9日 仙台工業高等学校【建築科】インターンシップ(～11日まで)(各現場)
- 9日 北海道士別市来所
- 10日 第6回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 11日 常任理事会
- 16日 第126回理事会
- 18日 宮城県優良建設工事表彰(宮城県庁)
- 19日 木建パトロール
- 22日 舗装部会
- 24日 フォーラム:東北は訴える！(仙台国際ホテル)
- 26日 第2回ひとにやさしいまちづくり推進協議会幹事会・総会(仙台市役所)
- 30日 第7回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 8月
- 9日 日本道路協会表彰伝達式(仙台市役所)
- 20日 第2回労務・安全管理委員会・安全指導員会 合同会議
- 21日 第2回建築委員会
- 22日 第2回雇用・安全管理パトロール
- 23日 木建パトロール

- 27日 第8回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 9月
- 5日 木建パトロール
- 6日 第2回仙台労働基準監督署・仙台市合同安全パトロール
- 11日 第9回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 12日 仙台労働基準監督署、労務・安全管理委員、安全指導員の意見交換会
- 19日 下呂建設業協会(岐阜県)視察研修受け入れ
- 20日 木建パトロール
- 27日 第10回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 27日 平成25年度安全大会(仙台市民会館)
- 10月
- 2日 木建パトロール
- 10日 第50回全国建設業労働災害防止大会(～11日まで)(新潟県)
- 17日 第3回雇用・安全管理パトロール
- 18日 木建パトロール
- 21日 常任理事会
- 22日 第127回理事会
- 30日 仙台市(太白区役所)と仙台建設業協会災害応急措置協力会との災害復旧合同訓練(重点地区・太白区)
- 11月
- 7日 木建パトロール
- 15日 木建パトロール
- 21日 第4回雇用・安全管理パトロール
- 12月
- 6日 木建パトロール
- 12日 平成25年度建設工事安全パトロール
- 20日 木建パトロール

仙台市の震災関連制度で説明会

説きました。このほか、昨年8月から運用している契

仙台市の入札・契約に関する制度の理解を深めようと、仙台建設業協会は6月3日、仙台市の宮城県建設産業会館で「仙台市におけるインフレスライド等震災関連制度に関する説明会」を開催しました。河合正広会長は「さまざまな制度をしっかりと生かし、仕事スムーズにできるよう勉強してください」と呼び掛けました。

参加したのは、協会会員など約90人です。初めに、仙台市都市整備局参事兼技術管理室の小林法夫室長が

「東日本大震災後の状況に対応して諸施策を進めてきています。今後とも国や県と調整しながら制度改善に努めていきます」とあいさつし、平成25年度の公共工事設計労務単価の概要や仙台市の総合評価方式について説明しました。

引き続き、同千葉勝義主査が「円滑な施工確保のための対策」をテーマに、インフレスライドを中心としてスライド請求のタイミングやスライド額、残工事量の算定、手続き方法などを、参考様式を示しながら解



使うため、最適な使い道を考えていきます」と感謝していました。

福祉施設に寄付金を贈呈活動、運営に役立てて

仙台建設業協会が毎年行っている、福祉施設に寄付金を贈呈する活動が今年も行われました。

施設の運営に役立ててもらおうと毎年続けている事業で、今年で20回目を数えます。

今年は2月22日に、環境福祉委員会の委員と事務局のメンバーが3班に分かれて市内12の福祉施設に寄付金を届けて回り、1施設当たり5万円を

寄付しました。

このうち、仙台市泉区にある社会福祉法人のはな会のはまなす苑では、鹿郷文博委員長と三浦忠委員、佐藤正基専務理事から、大松澤房子苑長に寄付金が手渡されました。大松澤苑長は、「毎年継続していただき大変ありがたくなっています。有意義に



に十分な数が揃い次第、はまなす苑に届けます」と協力を約束しました。

新しい顔ぶれ

(権利行使者変更年月日)

平成25年1月26日
株松川土木
代表取締役 松川 利守

平成25年4月2日
栗村建設興業株
代表取締役 栗村 英樹

平成25年6月21日
東日本コンクリート株
代表取締役社長 土屋 英治

発行所 一般社団法人 仙台建設業協会

発行 2013年12月00日

STAFF

■発行人／河合正広 ■編集人／松山克也 ■編集スタッフ／長谷川淳・熊谷吉行・丹野秀明
佐藤正基・藤栄治・寺嶋美姫・土屋祐子 ■編集協力／建設新聞社 ■印刷・製本／建設プレス

仙建協だより

行事報告(平成25年4月～12月)

4月

- 5日 木建パトロール
- 8日 第1回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 8日 総務委員会・常任理事会
- 9日 第125回理事会
- 10日 損壊家屋解体撤去作業現場安全指導パトロール
- 15日 正副会長会議
- 19日 木建パトロール
- 24日 平成25年度定時総会(江陽グランドホテル)
- 25日 第1回仙台市環境局震災廃棄物対策事業安全協議会(仙台市環境局)

5月

- 1日 第2回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 2日 木建パトロール
- 8日 損壊家屋解体撤去作業現場安全指導パトロール
- 9日 仙台市環境局震災廃棄物対策事業安全協議会 巡視パトロール
- 10日 第1回災害応急措置協力会役員(正副本部長・隊長)会議
- 10日 第3回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 10日 滋賀県建設業協会伊香支部震災視察対応
- 17日 木建パトロール
- 21日 第1回労務・安全管理委員会・安全指導員会 合同会議
- 21日 第1回仙台地区震災復旧・復興工事連絡会議(仙台労働基準監督署)

- 27日 青葉区役所・幹部職員と隊長社・隊長代行社との意見交換会(青葉区役所)
- 27日 宮城野区役所・幹部職員と隊長社・隊長代行社との意見交換会(宮城野区役所)
- 28日 第1回広報委員会
- 28日 太白区役所・幹部職員と隊長社・隊長代行社との意見交換会(太白区役所)
- 29日 若林区役所・幹部職員と隊長社・隊長代行社との意見交換会(若林区役所)
- 31日 泉区役所・幹部職員と隊長社・隊長代行社の意見交換会(泉区役所)
- 6月
- 3日 仙台市技術管理室によるインフレスライド等震災関連制度に関する説明会
- 5日 第1回舗装委員会
- 6日 第1回建築委員会
- 7日 木建パトロール
- 7日 静岡県沼津建設業協会視察対応
- 7日 第4回正副会長・土木・建築・舗装委員長会議
- 10日 第1回安全指導員会議
- 10日 東日本大震災復旧復興工事安全衛生確保事業に係る事業推進会議・指導員等会議の合同会議
- 11日 第1回土木委員会
- 12日 第1回雇用・安全管理パトロール
- 13日 仙台地区木造家屋等建築工事安全委員会平成25年度監査会
- 13日 仙台地区木造家屋等建築工事安全委員会ならびに幹事会合同会議
- 15日 未来の森再生プロジェクト植樹祭(荒浜地区)
- 19日 第21回定期会議ならびに各社安全衛生担当者全体研修会

街の防災
サポーター

この建設現場は、大地震時に
地域の救助活動を支援します。



建設現場を通じて防災活動の向上を図ります
仙台建設業協会

